

2015
選考結果

個性が輝く“ひと・まち・暮らし”づくり



中央ろうきん助成プログラム



中央ろうきん社会貢献基金
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5
フリーダイヤル：0120-86-6956 (平日9:00~18:00)

r2100 PRINTED WITH SOY INK
この冊子は古紙配合率100%の再生紙
および大豆油インキを使用しています。

ごあいさつ

〈ろうきん〉は、はたらく仲間を応援する非営利・協同組織の福祉金融機関。「はたらく人の生活を守り向上させる」という使命のもと、労働組合・生協・市民活動団体などの非営利組織と連携した助け合いの金融機能によって、はたらく人が安心して暮らすことができる地域社会の実現に取り組んでいます。

いま、はたらく人が暮らす地域は、子育てや環境、介護、さまざまな障がいや困難、格差など、たくさんの課題を抱えています。

「ひと」がそれぞれの地域で喜びと誇りを持ってはたらき、活動し、共にいきる一。私たちは、そうした人間味ゆたかな「共生社会」の具体化をめざし、2002年度に「中央ろうきん助成プログラム 個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくり」をスタートしました。

このプログラムは、関東エリア1都7県を対象に、未来の財産となる「ひと」を育て、魅力的で住みよい「まち」をつくり、多様な生きかたを認め合う「くらし」を実現する活動を応援します。

特に財政規模の比較的小さな団体を対象とし、市民活動の新しい芽をじっくり支えるプログラムとなっています。

今年4月、2015年の選考作業を無事終了することができました。

中央ろうきんをご利用いただいている皆さまへの感謝の気持ちと、一人でも多くの方に「中央ろうきん助成プログラム」を知っていただきたいという思いから、本冊子「2015年選考結果」を作成いたしました。

心をこめて、皆さまにご報告させていただきます。

中央ろうきん社会貢献基金

*このプログラムは、特定非営利活動法人市民社会創造ファンドの協力のもと、企画・運営を行っています。



中央ろうきん社会貢献基金

福祉・環境および文化にかかわる助成、支援活動を通じて、人々が共生できる社会の実現に資することを目的に設立(2002年4月1日)。はたらく人の団体、広く市民の参加による団体に対する助成・支援活動とそのため必要な事業を実施しています。

特定非営利活動法人市民社会創造ファンド

新しい市民社会の実現に寄与することを理念とし、NPOの資金源を豊かにし、民間非営利セクターの自立した発展と活発化を図ることを目的に、日本NPOセンターの実績の一部を継承・発展するかたちで設立(2002年4月1日)。個人・企業・団体等からの多様な寄附や助成の受け皿となる専門的なコンサルテーション機能を備えた資金仲介組織です。<http://www.civilfund.org>

2015年選考結果

「中央ろうきん助成プログラム 個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくり」は、市民活動の促進をめざして取り組む中央労働金庫(中央ろうきん)の社会貢献活動です。

今年は、応募件数245件の中から58件、助成総額1,767万円(内訳：スタート助成 57件 助成総額1,672万円、ステップアップ助成 1件 助成総額95万円)が、選考委員会による審査の結果、助成対象として選ばれました。

● 本プログラムの対象分野

下記の3分野を対象としています(複数の分野にわたって取り組む活動も含まれます)。

1 ひとづくり

未来をになう子どもや若者たちが、個性豊かに成長し、自立した個人として地域で行う活動など

2 まちづくり

生活の場としての居住地や商店街などを魅力的な空間とし、自然や歴史を生かした住みよい地域環境をつくる活動など

3 くらしづくり

地域に生きる人が、さまざまな障がいや困難を乗り越えて地域社会に積極的に係わり、安心して自立した生活を実現するための活動など

● 重視する活動

1

自らの地域をよりよくするために、さまざまな人が自発的に参加する活動

2

はたらく人が、自らの経験を活かして参加する活動

3

地域のさまざまな団体が連携し、参加する活動

● 選考委員会

※敬称略 所属名は選考委員会開催時点(2015年3月)

- 選考委員長 赤塚 光子 (特定非営利活動法人全国障害者生活支援研究会 会長 / 元立教大学 教授)
- 選考委員 遠藤 幸男 (東京労働者福祉協議会 顧問)
- 選考委員 徳田 太郎 (つくば市民大学(ウニベルシタスつくば) 代表幹事)
- 選考委員 星野 智子 (一般社団法人環境パートナーシップ会議 副代表理事)
- 選考委員 吉野 裕之 (一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団 チーフ・プログラム・オフィサー)
- 選考委員 岩村 真奈美 (中央労働金庫 総合企画部CSR企画 チーフマネージャー)

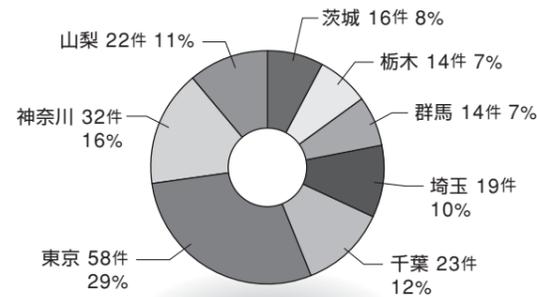
● 予備審査

(茨城)	特定非営利活動法人ひたちNPOセンター・with you	/	中央労働金庫茨城県本部
(栃木)	特定非営利活動法人ハイジ	/	中央労働金庫栃木県本部
(群馬)	群馬NPO協議会	/	中央労働金庫群馬県本部
(埼玉)	認定特定非営利活動法人さいたまNPOセンター	/	中央労働金庫埼玉県本部
(千葉)	特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ	/	中央労働金庫千葉県本部
(東京)	東京ボランティア・市民活動センター	/	中央労働金庫東京都本部
(神奈川)	認定特定非営利活動法人 藤沢市市民活動推進連絡会	/	中央労働金庫神奈川県本部
(山梨)	特定非営利活動法人山梨県ボランティア協会	/	中央労働金庫山梨県本部

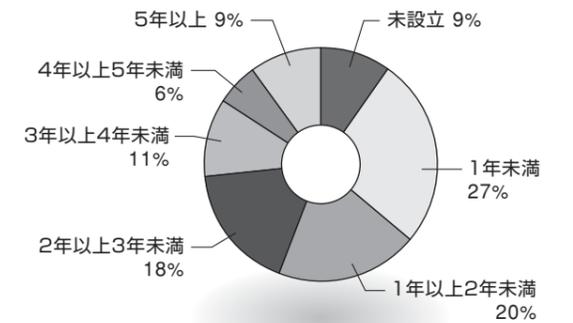
Data 応募状況

※スタート助成1年目(198件)を対象として集計

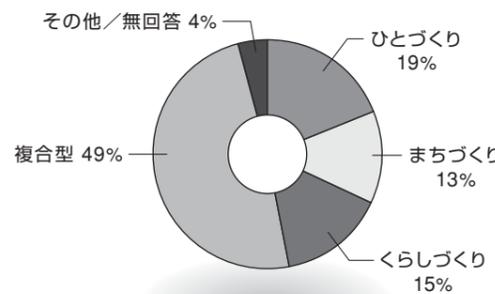
<地域別応募状況>



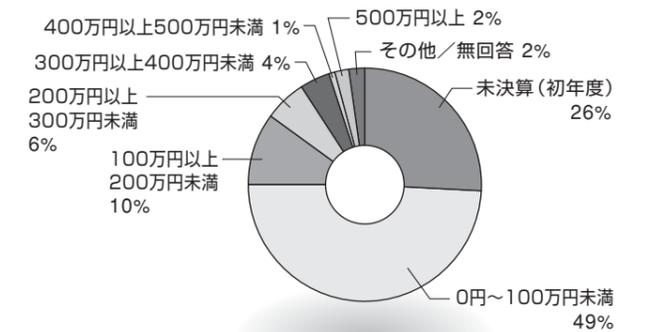
<応募団体の活動年数>



<活動分野別応募状況>



<応募団体の支出規模>



[分類]

- 1:ひとづくり
未来をになう子どもや若者たちが、個性豊かに成長し、自立した個人として地域で行う活動 など
- 2:まちづくり
生活の場としての居住地や商店街などを魅力的な空間とし、自然や歴史を生かした住みよい地域環境をつくる活動 など
- 3:くらしづくり
地域に生きる人が、さまざまな障がいや困難を乗り越えて地域社会に積極的に係わり、安心して自立した生活を実現するための活動など
- 4:複合型
他分野との複合により、上記1~3の分野に関連する活動 など

● 都県別の応募数・本審査対象数・選考結果

都県名	スタート助成・1年目			スタート助成・2年目			スタート助成・3年目			ステップアップ助成			採択数 合計
	応募	本審	結果	応募	本審	結果	応募	本審	結果	応募	本審	結果	
茨城	16	6	4	1	1	1	2	2	1	1	0	0	6
栃木	14	5	3	2	1	1	2	2	2	0	0	0	6
群馬	14	8	3	2	2	1	0	0	0	0	0	0	4
埼玉	19	6	3	3	3	1	2	1	1	0	0	0	5
千葉	23	8	2	4	3	3	2	2	2	1	1	0	7
東京	58	11	6	9	7	5	3	3	3	2	2	1	15
神奈川	32	9	6	3	3	3	2	2	2	1	1	0	11
山梨	22	9	3	1	1	1	3	2	0	1	0	0	4
合計	198	62	30	25	21	16	16	14	11	6	4	1	58

2015年助成の 選考について

選考委員長による選後評



選考委員長 赤塚 光子 (特定非営利活動法人全国障害者生活支援研究会 会長 / 元立教大学 教授)

表出している課題も潜在している課題も ～頼もしい助成プログラムの拡がり～

2015年中央ろうきん助成プログラム「個性が輝く“ひと・まち・暮らし”づくり」の助成団体が決定いたしました。

今年の応募総数は245件、昨年よりやや多い応募状況でした。各都県での予備審査を経て本審査対象となった応募プロジェクトは、スタート助成1年目が62件、2年目が21件、3年目が14件、ステップアップ助成が4件、計101件でした。本審査の選考委員会では、応募書類をもとに、活動の目的や内容、実施体制などを中心に白熱した議論が展開しました。その上で、選考委員の総意として58団体を採択いたしました。内訳は、スタート助成1年目が30件、2年目が16件、3年目が11件、ステップアップ助成が1件です。採択された団体のそれぞれには、中央ろうきん助成プログラムの仲間として、“ひと・まち・暮らし”づくりを牽引する役割を十分に果たしていただけるだろうと期待しているところです。

今年も、応募団体の活動対象や内容は多岐にわたっていました。“ひと”づくりの対象は「子ども」、「配慮が必要な子ども」、「障がいのある人たち」、「若者」、「高齢者」、「シングルマザー」、「外国籍の方たち」など、多様です。活動内容は、「発達障がい支援」、「就学支援」、「就労支援」、「日常生活支援」、「介護者支援」、「社会参加支援」、「自立支援」、「権利擁護支援」、「スポーツ活動支援」など、これも多様です。

それらは主として、生きづらさや暮らしづらさなどとして表出している課題への対応です。現行の制度や施策では足りないことが存在していることの証であり、応募団体の多くはそれらを補完して、「我がごと」として捉えながら、誰もが安心して暮らせる快適な社会を目指そうとし

ています。また関係する多くの方たちとの協働を意図したさまざまな工夫があり、当事者の力を引き出してともに歩いていこうという取り組みもみられます。さらには、潜在しているけれどもそのまま放置しておきたくない課題にも目を向け、活動をとおして将来を切り開いていこうという取り組み、例えば、子どもたちや若者たちの社会的自立に向けた支援なども目立つようになりまして。まさに“ひと”と“ひと”との先を見据えた新しい関わりへの提案が感じられました。

“まち・暮らし”づくりとして開始される活動も「コミュニティ」、「食育」、「緑化」、「農園」、「エコ」、「古民家」、「自然や海の環境」など多様であり、しっかりと地域に視点をあてて大事にしていきたい課題が並んでいます。まだ目が向けられていない潜在している課題を顕在化させていこうという取り組みとしても、大変期待されるところです。

どの団体のどの活動にもさまざまな“ひと”たちが登場し、活動の中で広い結びつきが生まれ、それが“暮らし”に動きかけています。活動の舞台は“まち”。それは、中央ろうきん助成プログラムがもつ、さまざまな課題に焦点をあてながら社会を活性化していく役割であり、道筋なのでしょう。

中央ろうきん助成プログラムは、私たちがもっと楽しく、もっと心地よく暮らすことができる社会にしていこう、もっと人にも自然にもやさしい社会をつかっていこうという意味を出発点にしています。それを形にしていこうという取り組みを、皆さんと一緒に育てていきたいと強く願っているところです。

2015年助成団体一覧

<スタート助成・1年目：30件> 活動開始資金 / 1団体上限30万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
茨城	3世代を繋ぐ地域みんなの子育てネットワークの構築(情報発信～コミュニティ場づくりへ)	もりや子育てネットワーク ままもり	宮下 嘉代子	守谷市・つくばみらい市・取手市	30万円
茨城	人とのコミュニケーションがうまくとれなくて困っている子どもとその保護者のための「みんな いい♥2015」	特定非営利活動法人こどもの育ちサポートステーション	大山 吐志	大洗町・近隣市町村	30万円
茨城	障害者と羊牧場、羊毛作り 始めます!	特定非営利活動法人 ORION	戸井田 美小夜	つくば市及び周辺市町村	30万円
茨城	世代間交流の場と居場所作り「レラの丘プロジェクト」	特定非営利活動法人 ソーシャルネットワーク創	小島 都	取手市	30万円
栃木	発達障がいや子どもたちの防災体験活動と自立支援活動	子育て支援クラブ あくあとちぎ	坂本 利夫	栃木市・小山市	30万円
栃木	自転車ハブダイナモ小水力発電機の製作及び活用	鹿沼自然エネルギー推進会	鈴木 貢	鹿沼市	30万円
栃木	サンバの里いちかいで発見・体験・感動	特定非営利活動法人いちかい子育てネット羽ばたき	水沼 桂子	芳賀郡市貝町	30万円
群馬	日本語を母語としない人のための受診・健診・防災 安心サポート	群馬の医療と言語・文化を考える会	原 美雪	県内全域	30万円
群馬	地域活性化サロン運営	自遊空間 みちくさ	伊勢 共栄	高崎市新町	30万円
群馬	75歳以上のひとり暮らし高齢者の日常生活支援	ハートフルつつじ会	諸田 喜代治	前橋市全域	30万円
埼玉	更年期を迎える女性の心と体の健康をサポート	ちえぶら	永田 京子	所沢市	30万円
埼玉	スポーツ・交流会事業	ソシオ・プロジェクト	山地 基生	所沢市及び近隣市区町村	30万円
埼玉	はらぺこ市	蛙たちの家	小林 夕紀恵	さいたま市	30万円
千葉	環境保全と地域活性化	特定非営利活動法人 GREEN CANVAS	山田 周治	君津市(三直～練木地区)	18万円
千葉	市民が市民の為に行う市民後見人として、行政からの支援が届きにくい市民層にも光を!	特定非営利活動法人 市民後見太陽	神 時夫	富里市を中心にその近隣市町村	30万円
東京	助け合いのしくみ「サラ・お互いさまネット」の立ち上げ	サラ・お互いさまネット	紀平 容子	立川市・国分寺市・小平市	30万円
東京	立川市周辺の子育て情報サイト運営における「育児中のママ・パパ記者」の育成とネットワーク作り	ワッカチッタ	石橋 由美子	立川市	30万円
東京	夜の児童館	特定非営利活動法人 豊島子ども WAKUWAKUネットワーク	栗林 知絵子	豊島区	30万円
東京	地域で多世代交流「これたま」プロジェクト	コレクティブハウス聖蹟 地域交流プロジェクトチーム	大橋 徹平	多摩市	30万円
東京	屋上農園プロジェクト	特定非営利活動法人 リトルネロ・ファクトリー	荒谷 大輔	杉並区	30万円



<スタート助成・2年目：16件> 活動開始資金／1団体上限30万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
21 東京	そよかぜ千石見守ろうネット	特定非営利活動法人風のやすみば	加藤 良彦	文京区千石地域を中心	30万円
22 神奈川	コミュニティcafé糧(りょう)における「集って食べて話せる場」の創造	かながわ地域看護ネットワーク(かて)	後藤 雪絵	伊勢原市を含む県央地区	30万円
23 神奈川	庭先の小さな図書館づくりプロジェクト	街の家族運営委員会	岩間 千秋	横浜市青葉区	30万円
24 神奈川	複合的・重層的な課題を抱える若者支援のための事例研究会・支援者養成講座	かながわ生徒・若者支援センター	中田 正敏	県内全域	30万円
25 神奈川	ひきこもり者・発達障害者・生きづらさを抱える人々と家族・支援者の勉強会	ふわふわの会	大塚 道子	藤沢市と近隣地域	30万円
26 神奈川	乳幼児のための自然あそび教室	Cooing	丹治 由美	葉山町	19万円
27 神奈川	不登校の子ども達のための夢も育てる食育プログラム～畑から始まる“食業”体験～	もぐら畑	中川 雅博	逗子市・鎌倉市・横須賀市・横浜市	30万円
28 山梨	ひきこもり当事者の社会復帰への支援	ひきこもり支援 すみれ会	清水 美千子	県内全域	30万円
29 山梨	地域資源の有効活用、人々の支え合いで住み良い街づくり	ビヨンド自然塾	室田 泰文	主に北杜市	30万円
30 山梨	障がいをもつ青年の地域における暮らし作り	特定非営利活動法人ゆめこころ	高田谷 久美子	南アルプス市	30万円
計					877万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
1 茨城	ちゃんみよTVで地域を一つの大きな家族に！インターネット放送による草の根情報発信のパワーアップ	特定非営利活動法人ちゃんみよTV	綾部 みよ	牛久市	30万円
2 栃木	シングルママの「キラッ!ピカッ!ラーニング」と子どもたちのための学習支援「ビーンズ園」	特定非営利活動法人コードモネットらくだーず	宮路 順子	県内全域(主に宇都宮市)	30万円
3 群馬	古民家で3世代交流コミュニティづくり活動	特定非営利活動法人思いをつなぐ会	葛西 詔子	高崎市	30万円
4 埼玉	コミュニティカフェを拠点とした、生活困難家庭青少年への学習支援活動	チームひだまり	上養 礼子	川越市	30万円
5 千葉	介護者への支援～人とつながり 地域をつなぐカフェ～	介護者支援の会 みちくさ	布川 佐登美	柏市	30万円
6 千葉	まちづくりがきっかけよくなる土気NGOまちづくり実践塾	特定非営利活動法人土気NGO	武田 伸也	千葉市	30万円
7 千葉	子どもの発達凸凹に悩む方の駆け込み寺 ぽっとカフェ事業②～仲間に出会える場、話を聞いてもらえる場、情報ステーションとして～	特定非営利活動法人たからばこ	武田 由美	南房総市・館山市・鴨川市・鋸南町	30万円
8 東京	福祉施設のヒト・モノづくり支援事業(モノづくりサロン)	モノづくりサロン	河原 由香里	1都7県	30万円
9 東京	おおた若者自立塾	フェイスコミュニティー	濱住 邦彦	大田区	30万円
10 東京	すみだ学習するまちプロジェクト～青少年と地域住民による「社会課題解決策共創」～	特定非営利活動法人THOUSAND-PORT	鈴木 篤司	墨田区	30万円
11 東京	LGBT(性的マイノリティ)就活ウェブサイト開設/運営	特定非営利活動法人ReBit	薬師 実芳	1都7県、全国	30万円
12 東京	訪問大学「おおきなぎ」(重度の障害を持つ方の特別支援学校卒業後の生涯学習の支援)	おおきなぎ	相澤 純一	東京都大田区近郊、神奈川県川崎市	30万円
13 神奈川	地域ジュニア記者クラブ	特定非営利活動法人夢キューブ	高橋 純子	足柄上郡周辺地域	16万円
14 神奈川	地域の外国人住民とつながる、楽しむ、考える異文化交流事業	Sharing Caring CULTURE	三坂 慶子	横浜市青葉区、都筑区	29万円
15 神奈川	逗子まちのこ保育プロジェクト「まちのこそだち久木」	逗子まちのこ保育プロジェクト	井上 亮子	逗子市	30万円
16 山梨	子ども・若者ソーシャルビジネス学校	bond place	小笠原 祐司	県内全域	30万円
計					465万円



<スタート助成・3年目：11件> 活動開始資金／1団体上限30万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
1 茨城	古民家「華の幹」の再生からはじめる筑波山麓活性化モデル事業	特定非営利活動法人 華の幹	飯塚 洋子	つくば市及び周辺市町村	30万円
2 栃木	日本語でさらにもっとつながれココロの輪	にほんご Friendly Class	柿沼 亮子	鹿沼市	30万円
3 栃木	ステンドグラスワークショップと農作業体験によるワークキャンプの開催	特定非営利活動法人 地域生活相互支援 大山田 ノンフェール・くらねえ	野毛 一起	那須郡 那珂川町	30万円
4 埼玉	青少年多文化学び教室	青少年多文化学びサポート (ESMY)	持丸 邦子	所沢市及び近隣地域	30万円
5 千葉	～社会で生きる力を気づき学びあう～ 「大学生ギアチェンジ・プログラム」	CHIEの輪	阿部 剛	松戸市	30万円
6 千葉	現代の多様化する家族って何?～地域に広げる支援者養成プロジェクト～	特定非営利活動法人 M-STEP	平田 えり	東京都を中心とした首都圏全般	30万円
7 東京	若年認知症家族交流会事業	特定非営利活動法人 若年認知症交流会小さな旅人たちの会	高橋 恵美子	中野区・杉並区	30万円
8 東京	世代間交流ホームシェア事業の正しい理念と運営方法の認識と普及のための「小冊子とイメージ用映像」の制作	特定非営利活動法人 リブ&リブ	石橋 鏡子	都内全域 (首都圏)	30万円
9 東京	自転車タクシーを活用した高齢者等の外出応援プロジェクト	特定非営利活動法人 みらくる	三好 義仁	葛飾区	30万円
10 神奈川	0歳から小学生まで、のびのび子育ての輪をひろげよう。～「外遊びのいっほ」講座プロジェクトと「べんべん里山あそびクラブ」プロジェクト	青空保育べんべんぐさ	井上 香織	横浜市青葉区	30万円
11 神奈川	小学校等における地域の海・環境教育の実践とその普及浸透のための教師・学校・地域の理解増進活動	特定非営利活動法人 ディスカバープルー	水井 涼太	県内全域	30万円
計					330万円



<ステップアップ助成：1件> 活動展開資金／1団体上限100万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
1 東京	夜の世界からNPOインターンのマッチング事業	一般社団法人 Grow As People	角間 惇一郎	東京都・埼玉県・千葉県	95万円
計					95万円

※2015年5月現在。活動名は一部変更となる場合がございます。



スタート助成・3年目／ステップアップ助成 対象団体の概要



古民家「華の幹」の再生からはじめる 筑波山麓活性化モデル事業

茨城県

特定非営利活動法人 華の幹

つくば市小田地区の古民家の保存と再生、活用に関する事業を行い、筑波山麓の地域資源を活用し、観光振興や地域交流を図ることで地域資源を次世代に継承することを目的とする団体(2011年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、古民家・華の幹(築106年の母屋、築141年の土蔵)の整備や、ここを拠点とした交流事業を進めるとともに、法人格を取得するなど団体としての体制も整えてきた。

3年目は、引き続き古民家再生・活用に関する講座や展覧会などを通じて地域の交流を図るとともに、厨房設備を完成させ、古民家内にカフェを開店することを目指す。また、会員や寄付の獲得に努め、団体の財政基盤の整備に取り組み、引き続き事務局体制を整えていく。



日本語でさらにもっとつながれココロの輪

栃木県

にほんご Friendly Class

外国籍市民が地域で自信を持って自らの力を発揮するために、その必要な手段である日本語を中心とした支援を行うとともに、多文化共生のまちづくりに取り組む団体(2008年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、外国籍市民を対象にした日本語教室を毎週実施するとともに、生活支援講座や日本文化の体験講座の開催を通じ、参加者のニーズ調査や教室に参加しない外国籍市民の掘りおこしを行った。

3年目は、日本語教室については、参加しやすい短期のコースを設けるなど、参加者のニーズに合わせて展開する。その他にも、無料の学習教室を充実させ、日本文化体験を引き続き実施する。文化体験については、着物の体験の他にも茶道、書道、地域の伝統工芸づくりの体験を地域の人を巻き込みながら実施する。



スタンドグラスワークショップと農作業体験によるワークキャンプの開催 栃木県

特定非営利活動法人 地域生活相互支援 大山田ノンフェール・くらねえ

閉校となった小学校を活用し、社会的弱者、特に精神障がいを持つ人々と地域住民がともに地域で豊かに暮らすための相互交流と相互支援を主な目的とする団体(2010年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、障がいを持つ人と地域住民の相互交流を促すことを目的とした「出張」スタンドグラスワークショップと展覧会を実施した。その結果、活動の認知度が高まり、地域内の美術館ギャラリーと寺院の2箇所で、毎年開催できる見通しを立てることができた。

3年目は、スタンドグラスワークショップと農作業体験を組み合わせたワークキャンプを実施し、主に精神医療に関わる援助者との交流事業を行うことで、地域の人と精神障がい者が地域で共に暮らすことについて考えていく。



現代の多様化する家族って何?～地域に広げる支援者養成プロジェクト～ 千葉県

特定非営利活動法人 M-STEP

ひとり親家庭やステップファミリー(子どもを連れて再婚した家庭)など、現代の多様化する家族が暮らしやすい社会の実現を目指して活動に取り組んでいる団体(2011年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、「家族」をテーマとした映画作品の上映会や、様々な家庭事情を抱える家族同士の交流会等を実施することを通じ、多様化する家庭・家族のあり方を社会に広く発信するとともに、当事者同士の交流の促進に取り組んだ。

3年目は血縁関係のない子どもを育てる「中途養育者」をサポートする人材を養成するため、「ステップファミリー支援者養成講座」を開講し、支援ネットワークの構築を目指す。



青少年多文化学び教室 埼玉県

青少年多文化学びサポート (ESMY)

多文化・多言語を背景を持つ子どもたちに、より良い学習環境を提供することを目的として活動している団体(2012年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、教育に関わる他団体との連携や、団体会員を支援者として学校に派遣するなど、日本語の学習支援体系の形成や個々の支援対象者のニーズに対応する学習支援に取り組んだ。

3年目は、日本語学習不足により教科学習が困難とされる子どもたちを掘りおこし、支援を必要とする子どもにくまなく支援を行うことを目指し、小学生を対象とした放課後教室の新設や長期休み中の学習支援等を実施する。さらに学習支援の質を向上させるため、支援者に対する研修会の充実を図る。



若年認知症家族交流会事業 東京都

特定非営利活動法人 若年認知症交流会 小さな旅人たちの会

東京都中野区、杉並区を中心に、交流の場づくりや定期旅行などの活動を通じて、若年性認知症患者とその家族が前向きに安心して暮らせる地域づくりに取り組む団体(2013年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、若年性認知症患者とその家族を対象とした交流会や、団体広報誌の定期発行、講演会などを通じた認知症理解の促進や行政・関連諸機関との関係づくりに取り組んだ。

3年目は、身近な地域に「ともに集い共感できる場」を創出し、潜在的な対象者たちが、社会や地域との接点を再び得るための場づくりに取り組む。また、学生や介護専門職、看護師などの地域の様々な人材に活動のサポーターを依頼し、理解と支援の輪の拡大を目指す。



～社会で生きる力を気づき学びあう～「大学生ギアチェンジ・プログラム」 千葉県

CHIEの輪

周囲の環境から起きる教育格差を無くし、若者の未来の可能性を広げることを目的として、学生が主体的に地域に関わるプロジェクトに取り組むことの支援や、市民活動団体が若者の受け入れプログラムの作成等を行うことを支援している団体(2010年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、松戸市内のNPOに対してプロジェクト型学習の導入に取り組み、団体に若者の受け入れ方についてノウハウの提供を行った。

3年目は、引き続き市内の市民活動団体への若者の参画を進める。新たな取り組みとして、高校や大学のボランティアサークルや地域活性に取り組む若者支援団体と協働で企業や地元商店とタイアップしながら、働くことをテーマとした「事業型エクスターンシップ」プロジェクトの立ち上げに取り組む。



世代間交流ホームシェア事業の正しい理念と運営方法の認識と普及のための“小冊子とイメージ用映像”の制作 東京都

特定非営利活動法人 リブ&リブ

大都市に住む一人暮らしの自立したシニアと地方から就学に来た大学生が、ひとつ屋根の下で、お互いの生活を共に支えあう「世代間交流ホームシェア」事業に取り組む団体(2011年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、世代間の溝や他人を家に入れることへの抵抗感を軽減する事を目的とした世代間交流会やランチ会などを実施し、ホームシェアのパイロットケースを3ケース生み出すことができた。

3年目は、引き続きパイロットケースを実施すると同時に、正しい活動理念と運営方法を普及させるため、小冊子と映像を制作し、より多くの方々に理解してもらえるよう、広報強化に努める。



自転車タクシーを活用した高齢者等の外出応援プロジェクト 東京都

特定非営利活動法人みらくる

未来の地域社会を住民・NPO・行政・企業等と連携し、共に作り上げていくことを目的に、自転車タクシーの運行を通じ、様々な活動に取り組む団体(2010年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、葛飾区に住む高齢者等を対象に、柴又周辺における自転車タクシーを利用した送迎サービスや、利用者同士の交流を目的とした食事会を実施した。乗車人数は着実に増加し、目的に応じた送迎サービス(通院、買い物等)やコミュニケーションの場を提供することができた。

3年目は、従来のサービスに加え、自転車タクシー利用者の日常生活の様々な困りごとをサポートする生活支援事業に取り組む。本活動を通じ、独居や夫婦のみの高齢世帯の生活をより幅広く支援することを目指す。



0歳から小学生まで、のびのび子育ての輪をひろげよう。～「外遊びのいっぽ」講座プロジェクトと「べんべん里山あそびクラブ」プロジェクト～ 神奈川県

青空保育べんべんぐさ

横浜市青葉区を拠点に、未就学児を持つ母親と保育者が協力し、緑の多い公園や野山などでのびのびと子どもを育てる青空保育に取り組む団体(2012年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、安定した保育体制づくりや運営に関わる会議の効率化、情報発信に取り組んだ。また、地域の公的施設や他団体からの依頼により、外遊びや出張講座等を実施するなど、活動の知名度向上にもつなげた。

3年目は、これまでの取り組みを継続しながら、外遊びの機会が少なくなる年中～小学生の子どもを対象としたイベントの企画・実施に取り組む。保護者のOBや地域の協力を仰ぎながら、組織・活動のさらなる運営強化と外遊び体験機会の創出を目指す。



小学校等における地域の海の環境教育の実践とその普及浸透のための教師・学校・地域の理解増進活動 神奈川県

特定非営利活動法人ディスカバーブルー

神奈川県を中心に、「人」と「海」の持続可能な新しい関係性の構築を目指し、市民の方々に海をより身近なものとして大切に感じてもらえるよう、海の専門的・学術的な知識に基づく様々な学びの場の提供に取り組む団体(2011年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、県内の小中学生等を対象に出前授業を実施するとともに、学校の先生に対し、海の環境教育の必要性や理解向上に努めた。

3年目は、引き続き出前授業を実施しつつ、新たに学校の先生などを対象とした、海の環境教育指導者向けの研修・勉強会を実施する。研修・勉強会は、参加者らの負担を軽減するため、業務として参加できるような仕組みづくりを行い、持続的に海の環境教育に取り組む指導者の育成を目指す。



夜の世界からNPO インターンのマッチング事業 東京都

一般社団法人Grow As People

「誰もがあきらめることなく成長し、「次」を創造し、人生最後の瞬間まで笑って過ごせる社会を創る」ことを理念に、環境的な要因(ひとり親・いじめ・DV等)で夜の世界に依存する立場になってしまった女性達のセカンドキャリアを支援する活動に取り組む団体(2010年設立)。2013年～2014年のスタート助成を受け、3年目でステップアップ助成にチャレンジ。

2ヵ年の助成を受け、元当事者の女性達を相談員とし、セカンドキャリアの相談対応の充実を図ったところ、相談件数は1年目で倍となる400件を超える成果を得た。また過去の写真がキャリア形成の障壁となっている実情から、写真削除の依頼を入口に相談しやすい仕組みを構築した。

ステップアップ助成では、年齢の限界となる40歳を迎える女性達が、経歴と就労スキルの不足から転職が出来ない現状を改善するために、短期間の職業訓練の場としてNPOでインターン活動する機会を提供する。NPOの運営に関わることを通じて、社会復帰に向けたキャリア形成の一助となるような支援を目指す。

選考委員会では、社会的に見過ごされがちな課題に目を向け、ニーズに応じた支援を新しい視点と発想で展開している点が評価された。団体のミッションと役割を丁寧に発信し、より多くの支援者と賛同者を得ながら、先駆的なモデルとして活動を展開していくことを期待し応援したい。



シンボルマークのご紹介



芽が出たばかりの『種子』は、スタート助成1年目の団体を表しています。「これから始まる活動」や「始まったばかりの活動」を応援していることを表現しています。

『双葉』は、スタート助成2年目の団体、さらに成長した『若葉』は、スタート助成3年目の団体を表しています。活動が定着するまで継続して応援し、徐々に活動が育まれていく様子をイメージしています。

立派に咲く『大きな花』は、ステップアップ助成の団体を表しています。ステップアップ助成は、スタート助成で3年または2年にわたって活動を行った団体が対象で、さらにその活動を展開・定着させていくための資金。すでにある団体の「力」と、ろうきんの助成金という「肥料」とが合わさり、大きな「花」が咲くことを願ってデザインしています。

予備審査 担当者所感

応募を受け付けたスタート助成239件全てに対し、都県ごとに予備審査を実施いたしました。予備審査に参加した各地域のNPO支援組織と中央労働金庫都県本部の、それぞれの担当者所感を掲載いたします。



茨城県

特定非営利活動法人 ひたちNPOセンター・with you

今年は、ひとり親、貧困問題、子どもの教育の充実など社会的格差に目を向けたものや、子育てに対する世代を超えた多様な支援など、今までと違う風を感じました。

社会的な流れや社会の求めているものを、敏感に反映しているものと思われま。 「自分たちが困っているもの」から「社会的に困っている人やもの」へと、広がりを感じました。

現在、行政では、取り組むことができないままの分野や、どのように取り組んで良いのか分からない分野があります。その先進事例となることに期待を込めて、応募書類を読ませていただきました。

中央ろうきん 茨城県本部

今年の予備審査を通じて、地域社会の中で幅広い世代の数多くの団体の皆様が、さまざまな目的を持って、生き生きと活発に活動をされていることに改めて感銘を受けました。

今回ご応募いただいた全ての団体の今後の活動に期待しておりますが、特に少子高齢化が進んでいる現在において、子育て支援や高齢者が活躍出来る場の創出、提供を行っている団体に注目していきたいと思っております。



栃木県

特定非営利活動法人 ハイジ

地域で抱えている課題は様々です。課題をひとつずつ解決していくために、得意なことを活かして主体的に活動している団体は、地域になくはない存在になっていくでしょう。そして、その活動に勇気ももたらして、未来を担う若者たちが次々に活動を始めることでしょう。どうか皆様の熱い思いを文章や数字(事業計画や収支計画)で伝える努力を惜しまないでください。

私たちは、助成プログラムのパートナーとして、これからも皆様の活動を支援し続けていきたいと思っております。

中央ろうきん 栃木県本部

栃木県内18団体の予備審査を担当し、応募書類を拝読させていただきました。子育て支援、自然と文化の継承、高齢者や障がい者の孤立防止と自立援助等、地域社会が抱える様々な課題に対して、誰かが担わなければならない役割を受け持ち、日々活動をされている各団体の方々に、頭が下がる思いがしました。

それぞれ有意義な活動をされている各団体の中から、本審査への推薦団体を選ぶのは非常に困難でしたが、栃木の地域事情に合致しているかどうかを考慮の上、選出を行いました。

応募された全ての団体の活動が、今後ますます発展されることを祈念いたします。



群馬県

群馬NPO協議会

今年の予備審査で感じたのは、助成金を一回限りで使って終わりというのではなく、1年目の助成金を、2年目につなげられるような応募が多かったと思います。どれも社会のニーズをきちんと捉えているものばかりでした。企業が商品づくりに力を入れるのと同じように、NPOにとって商品は活動そのものですから、その活動がいかにか社会にとって必要で魅力のあるものかを訴えることがポイントになります。

また、応募書類は、応募する活動の内容が端的に記されているか、応募金額は間違いのないか、複数の目で最終チェックすることをおすすめします。

中央ろうきん 群馬県本部

助成プログラムに応募いただいた団体からの概要を拝見するだけで、どれも地域社会の中で、互いに助け合い、協力して解決しなければならない内容であり、支援が必要であると強く感じました。

そのような思いの中での予備審査は、書面のみでしか判断できないため、時間をかけ熟読し丁寧に行いました。資料には、「ひと・まち・くらしづくり」と各分野における応募団体の気持ちがぎっしりと詰まっております。豊かな社会の実現を目指すものとなっております。群馬にすばらしい財産があると感じました。

最後に、日々活動されているみなさまへの敬意と、応募いただきました全ての団体の発展を心より祈念いたします。



埼玉県

認定特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター

どの応募内容も、地域の課題解決や、より良いくらしづくりにつながる内容で、それぞれが実現できればいいなと思いました。活動の目的や内容により「担い手」がシニア層中心の団体、若い世代だけの団体はありますが、比較的様々な年代で構成している団体が多かったことが印象的です。

予備審査では、2015年の具体的な活動内容はもちろんですが、以降の展開や目標なども重視しました。今回の応募をきっかけとし、例えば3年後の在り方や活動についても団体内で共有していただければと思います。

中央ろうきん 埼玉県本部

寄せられた応募書類に目を通し、各団体のそれぞれの活動は、社会・地域が抱える課題の解決に向けた大変意義のあるものだと改めて感じました。現在、社会・地域には行政では対応しきれない課題が数多く存在しております。だからこそ、市民の自由で柔軟な発想を活かした活動は、今後ますます重要になっていくと考えます。

物事を成し遂げるためには何よりも「熱意」が大事と言います。審査の結果にかかわらず、各団体の皆様の熱意と志が、今後、周りの多くの人を巻き込み、活動がさらに発展していくことを期待しています。

予備審査

担当者所感



千葉県

特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

千葉県は東京に隣接する東葛エリアと、南房総エリアでは、地域状況や課題が大きく異なります。スタート助成1年目の応募内容は、そうしたことを感じさせるものでした。身近な課題と、それに対応する活動内容。また、事業規模は小さくとも行政では実現できない取り組みがみられました。スタート助成2年目、3年目の応募内容については、前年の活動のベースを基盤に、新たな活動内容を加えた形での提案がほとんどでしたが、事業内容、スケジュール等、書き込み不足が感じられる団体もいくつか見受けられました。人材不足が課題であることを感じました。

中央ろうきん 千葉県本部

今年応募された各団体の活動目的と活動内容を読み込むほどに、選考は非常に難しいものとなりました。震災復興支援・介護を含む高齢者の問題、そして将来を担う子供たちへの支援など活動目的が同じものでも、その取り組みには様々な切り口があり、そのどれもが貴重なものと感じられました。また活動において、各団体ともに行政や地域団体との良好な協力関係を築いていることが伺えました。

今回助成を受けた全ての団体の皆様には、継続した活動をお願いするとともに、これからの発展を祈念申し上げます。



神奈川県

認定特定非営利活動法人 藤沢市市民活動推進連絡会

「中央ろうきん助成プログラム」は、団体の成長過程に応じて大変応募しやすい構成になっていますので、神奈川県では今年も多く活動団体がチャレンジしました。応募された内容は、それぞれ自主的で特徴のある興味深いものであり、取り組んでいる課題は社会性・地域性に富み、必要のない活動は一つもありませんでした。

特に、将来的に自立を目指す意思の明確な団体も多く見ることができ、自主性・自立性が市民活動のキーワードになったとの実感を得た予備審査となりました。

中央ろうきん 神奈川県本部

予備審査を通じ、より良い「ひと・まち・くらしづくり」をテーマに数多くの団体が活動していることを知る機会となりました。

現代の日本社会が直面している障がいを持った方の安定雇用・子どもたちの健全な育成など、様々な課題の解決を目指す諸団体の活動は、将来の日本社会に必ず寄与するものと感じました。

また、それを実現するべく、人と人が力を合わせて、この活動を広げていくことこそ助成プログラムの本当の意味だと思います。

最後になりますが、今回応募いただきました全ての団体の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。



東京都

東京ボランティア・市民活動センター

「中央ろうきん助成プログラム」では、助成が決まった各団体のその後の取り組みの状況を伺える機会があります。応募書類を拝見する際にも、応募する内容はもちろんですが、活動が実施できた時に、申請した団体と、団体のまわりの「コミュニティ」がどうなっていくだろうか、ということ想像しながら読ませていただきました。

多様な参加者と交わる中で、団体も成長しそう、参加者同士の参加後のネットワークづくりにつながりそう、異なる分野の活動や市民活動団体以外の個人や団体と関わりが持てそうなど、応募書類の内容にわくわくし、期待を感じた案件を応援しました。

中央ろうきん 東京都本部

予備審査にあたり真剣に審査をさせて頂きました。また、一人で審査をするという事でしたので慎重になり過ぎないように注意をいたしました。

ろうきんの融資であれば規程がありますが、助成プログラムは「ひと・まち・くらしづくり」の活動団体に合致しているかの判断です。評価方法を途中で読み直しながら、より審査の中立性と団体の方向性を探り評価しました。

今回応募いただきました全ての団体の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。



山梨県

特定非営利活動法人 山梨県ボランティア協会

山梨では人口減少が大きな問題となっています。その中で子育てや地域活性化などの新しい視点からの応募が多く、山梨で、今後取り組んでいかなくてはならない課題を多くの方が認識していると感じました。

しかし、応募の内容を見ると類似しているものも多くNPOが連携しながら一緒に取り組むことでさらに成果が出るのでは、と感じるものも見受けられました。今回応募があった取り組みが多くの皆さんが関わり・繋がりながら実現していくことを期待します。

中央ろうきん 山梨県本部

今年の助成プログラムの予備審査にあたり、多くの団体の皆様からの応募書類を拝見させていただきました。

各団体においては、助成のテーマであり「ひと・まち・くらしづくり」に向けた取り組みについて真剣に考え、多くの課題や困難を抱えながらも地域に根ざした活動を行っていることを改めて感じさせられました。

どの団体の応募書類も甲乙つけがたいほど内容があるものであり、審査に苦勞いただきましたが、地域への貢献性や助成後の発展性などを特に重視して審査を行いました。最後に、今回の審査結果にかかわらず、ご応募いただきました全ての団体の更なる発展を祈念申し上げます。

本審査

選考委員 所感



各地域の予備審査を経て、選考委員会を開催いたしました。
6つの選考基準（地域貢献性、独創性、実現性、参加性、成長性、発展性）
に基づき選考にあたった、各選考委員の所感を掲載いたします。

東京労働者福祉協議会 顧問 遠藤 幸男



1都7県のエリアで、①ひとづくり②まちづくり③くらしづくりをテーマに、発達障がいなど様々な障がいに直面し、厳しい生活と社会参加が困難とされている人たちや、言語・文化・防災・教育・就業などにおいて困難を抱えている外国籍の人たち、介護や認知症などの待たなしの社会課題に直面する人たち、また里山保全などの自然環境問題、子どもや高齢者の居場所や遊び場づくりなど、地域に存在する課題解決に向けて取り組んでいる団体に寄り添い、その貴重な活動に最大4年間の支援を行う「中央ろうきん助成プログラム」が本年もスタートしました。今年は245団体から応募があり、予備審査を通過した101団体の審査を行わせていただきました。今回も多岐にわたる活動分野から応募が寄せられ、どの活動も社会貢献性や「今、支援しなければ」といった緊急性・深刻性の高い課題にチャレンジされており、今年も助成団体を決定することに苦悩いたしました。

格差や貧困がますます拡大する社会構造の中で、どの団体も公でカバーできない課題解決に取り組んでいる素晴らしい活動です。今回の助成結果にかかわらず、もっと多くの団体と連携・協働を心掛け、孤立することがないように日々頑張っていたいだきたいと思います。選考委員である私も、皆さんと認識を共有し、少しでも社会に貢献できるよう取り組んでいきたいと思っています。

つくば市民大学（ユニベルシタスつくば） 代表幹事 徳田 太郎



活動を考える時に、私たちはともすると「何をするのか(=What)」だけに意識がいつてしまいます。しかし、その活動を他の人々に伝え、協力を得ようとする際に大切なのは、「なぜ、それをするのか(=Why)」という目的と、「どのように、それをするのか(=How)」という手段を、Whatとあわせて丁寧に共有することです。Why、What、Howの3つが必然的に結びついたものであると感じられて、初めて人は動く。助成の申請も同じです。目的に対する活動の整合性、活動に対する手段の有効性こそが、判断の最初のステップであることを忘れずに、選考委員を「動かして」ください。

私たちの取り組みは、いずれも「現状を維持する」ためのものではありません。「課題を解決する」というスタンスで臨むか、「未来を創造する」というスタンスで臨むかという違いこそあれ、地域や社会に何らかの変化をもたらすものです。そして、変化は必ず抵抗に遭遇します。揶揄や批判にさらされることもあるでしょう。無力感にとらわれることもあると思います。そのような時こそ、まずは目的に立ち返りましょう。そして、必要に応じて手段を見直す。Whyに対する頑固さと、Howに対する柔軟さで、ともに地域や社会を動かしていきたいです。

一般社団法人環境パートナーシップ会議 副代表理事 星野 智子



今年の応募書類からも、地域のさまざまな課題に向き合っているたくさんの活動について知ることができました。少子高齢化社会に対応した活動や、重要であってもなかなか社会の関心が集まらないような活動まで多様ですが、人とのつながりや地域の協力関係が強い活動ほど長く継続し、発展が見込めるようです。一人の人が頑張るだけではなく、いかに多くの人がつながり合いながら、互いを巻き込んで、そして一人ひとりがその課題に向き合い、「自分ごと化」できているかという点が重要ではないかと考え、その視点で審査いたしました。

また嬉しかったことは、助成団体を対象にした中間報告会（フォローアップミーティング）の場で、団体同士がよく学び合い、情報交換したり、一緒に活動できるパートナーを見つけたりして、実際に団体同士の協働が進んだ事例があったことです。この助成金の意義、役割が着実に定着していると感じられました。

住みよいまち、多様な生き方を認め合う暮らしを創ろうと、熱い想いで取り組む方たちと今後も出会えることを楽しみにしています。

一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団 チーフ・プログラム・オフィサー 吉野 裕之



ひとづくり、まちづくり、くらしづくり。それは、対立や変化を抱えながら、私たちの生活の場＝地域をより豊かに実感していくこと。ここで注意したいのは、実感できるようにすること、ではないということ。実感できるように、といてしまうと、する人としてもらう人が分かれてしまう、つまり実感できるようになるまで待っている人を生み出してしまいます。おそらく、行政セクターや企業セクターが主体となった従来の活動は、その問題があったのではないかと思います。

ひとりひとりが地域に関わること。それがひとづくり、まちづくり、くらしづくりの健やかなありよう。地域に関わるとは、地域に対してなにかの意志をもち、具体の活動を行うこと。とはいえ、すべての人がこの2つを実践することはやはり難しい。しかし、意志を持つことは誰にでもできます。この意志を起動し、束ねる役割を担うのがNPO・市民活動なのだと思います。

今年も多くの応募団体と出会うことができました。それは社会のさまざまな課題に出会うことであり、選考を通して多くのことを学ぶことができました。ご応募いただいたすべての団体に心よりお礼を申し上げます。

中央労働金庫 総合企画部CSR企画 チーフマネージャー 岩村 真奈美



今年も想いの詰まった応募用紙がたくさん届きました。選考をとおして、私たちが暮らす地域には、常にさまざまな問題や課題があること、でもそれらに向き合い、地域や社会を変えていこうとしている人たちがたくさんいらっしゃることを再確認しました。

選考基準に加えて、地域で暮らす生活者の一人として、私自身が一緒に参加してみたいと思える活動や、こんな活動があったら地域が元気になるのではと思えることを意識して審査しました。また、応募用紙に記載しなければいけない情報が適切に書かれているか、わかりやすい表現で書かれているかなど、応募用紙を作成する際の基本的な約束事が守られているか等の点にも注意しました。

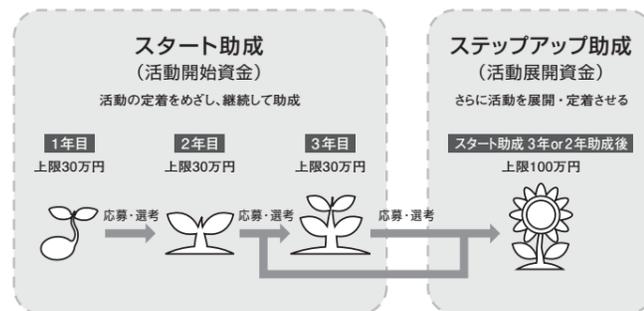
中央ろうきん助成プログラムは、団体の活動資金を単に提供するだけではなく、地域を越えて助成団体同士の交流を深め、スタート助成1年目から2年目、3年目と継続助成によって、団体が組織として成長していくことを応援する仕組みになっています。助成金を「出す側」と「受ける側」の想いがつながり、地域に暮らす人々にとって社会がよりよく変わることを願っています。ご応募いただいたすべての団体の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

市民活動の新しい芽を、最長4年間支えます。

ステップを踏んでチャレンジする、継続助成制度

スタート助成1年目の助成が決定すると、活動の発展に伴って2年目、3年目、更にステップアップ助成へと継続的に応募し、最長4年間の助成に挑戦することができます。

継続して助成を受けるには、年ごとに応募し、選考を受ける必要がありますが、応募用紙を作成することで、各団体の活動の目的・内容・方向性などを改めて振り返っていただく機会の創出につなげています。



“つながり”を大切にする助成制度をめざして

年ごとに実施されるこのプログラムでの出会いは、一期一会。〈中央ろうきん〉と助成団体との出会いはもちろん、助成団体同士の出会い、選考や運営に協力いただく選考委員・NPO支援組織の方々との出会いがあります。このプログラムで出会った方々との“つながり”を大切に、分野や地域を越えた新たなネットワークやパートナーシップを築いていただくため、年に数回の交流の場を設けています。

● パートナーミーティング (贈呈式)

助成決定後に、贈呈セレモニーと交流会の2部構成で開催いたします。助成が決まったすべての団体にご出席いただくほか、プログラムの関係者が一堂に会し、1都7県から地域のNPO支援組織の方や〈中央ろうきん〉職員もお祝いに駆けつけます。「パートナーミーティング」の名のとおり、これから始まるお付き合いの挨拶も兼ねて、相互の理解と親睦を深める交流の場となっています。

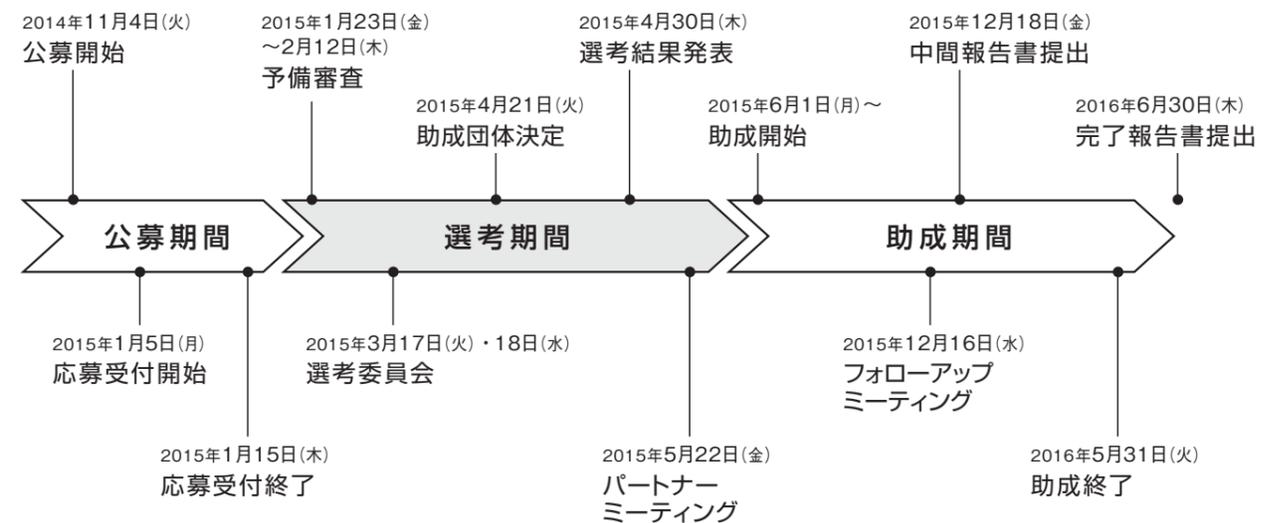


● フォローアップミーティング (中間報告会)

助成期間を一定期間経過したのち、最長4年の助成制度を上手に活用し、それを糧にそれぞれの団体が自立した事業運営を進めていくためのワークショップを実施しています。活動の成果や課題を振り返ることで自分たちの活動を見つめ直す機会となるほか、他の団体の活動内容や助成金の活用方法を知ること、今後の活動のアイデアを共有する機会となっています。



<2015年スケジュール>



協力団体

<企画・運営>

特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド <http://www.civilfund.org/>

<広報・予備審査・選考>

特定非営利活動法人 ひたちNPOセンター・with you <http://www12.plala.or.jp/NPOWY/>

特定非営利活動法人 ハイジ <http://blog.canpan.info/npo-heidi>

群馬NPO協議会 <http://gunma-npo-kyougikai.way-nifty.com/>

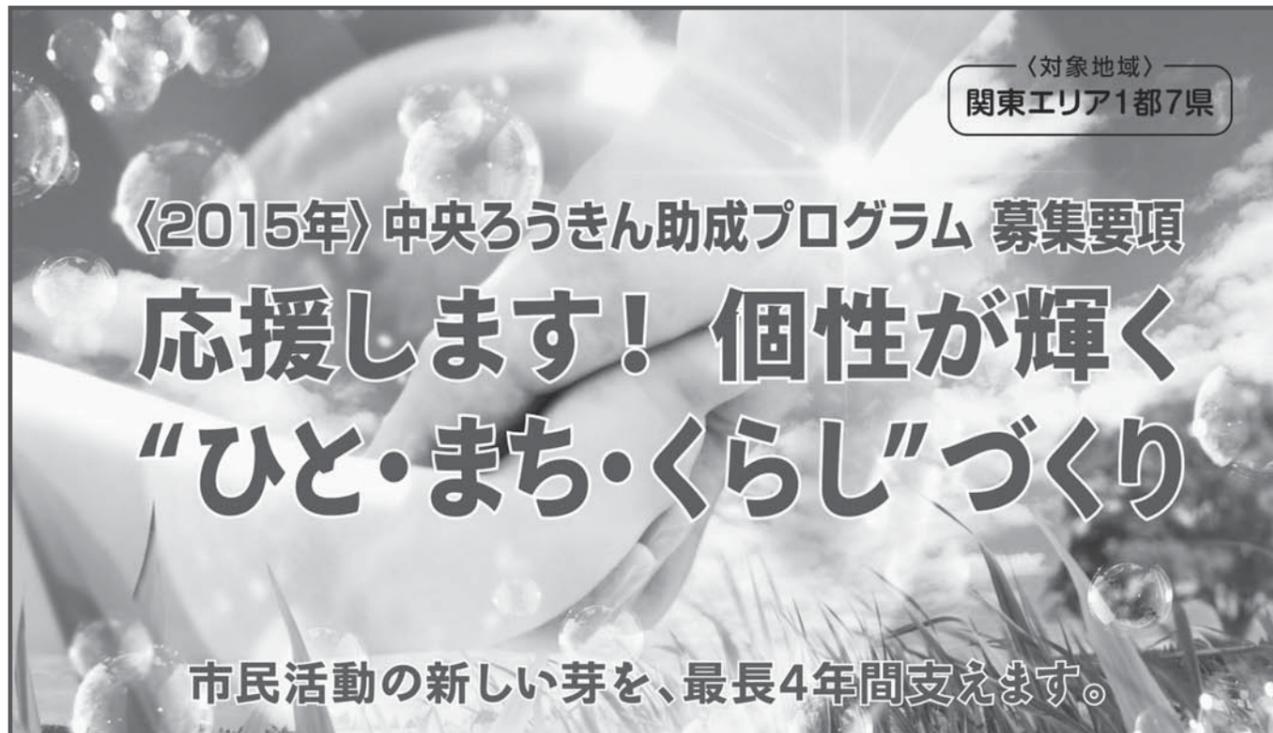
認定特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター <http://www.sa-npo.org/>

特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ <http://npoclub.com/>

東京ボランティア・市民活動センター <http://www.tvac.or.jp/>

認定特定非営利活動法人 藤沢市市民活動推進連絡会 <http://f-npon.jp/>

特定非営利活動法人 山梨県ボランティア協会 <http://www.yva.jp/>



「ひと」が、それぞれの地域で喜びと誇りを持って働き、活動し、共にいきる――。
 私たちは、そうした人間味ゆたかな社会の実現をめざし、個性が輝く「ひと・まち・くらし」づくりをテーマに助成を行います。
 このプログラムでは、関東エリア1都7県を対象に、未来の財産となる「ひと」を育て、魅力的で住みよい「まち」をつくり、多様な生きかたを認め合う「くらし」を実現する活動を応援します。
 特に、財政規模の比較的小きな団体を対象とし、これからはじまる活動をじっくり支えるプログラムとなっています。
 それぞれの地域で活動しているボランティアグループや市民団体からの応募をお待ちしています。

中央ろうきん社会貢献基金

*このプログラムは、特定非営利活動法人市民社会創造ファンドの協力のもとに実施しています。
 ※「中央ろうきん社会貢献基金」は、中央労働金庫が社会貢献活動の推進を目的として、2002年4月に設立した基金の名称です。

1 対象分野

下記の3分野を対象とします。
 (複数の分野にわたって取り組む活動も歓迎します)

- (1) ひとづくり：
 未来をにう子どもや若者たちが、個性豊かに成長し、自立した個人として地域で行う活動 など
- (2) まちづくり：
 生活の場としての居住地や商店街などを魅力的な空間とし、自然や歴史を生かした住みよい地域環境をつくる活動 など
- (3) くらしづくり：
 地域に生きる人が、さまざまな障害や困難を乗り越えて地域社会に積極的に係わり、安心して自立した生活を実現するための活動 など

2 重視する活動

- (1) 自らの地域をよりよくするために、さまざまな人が自発的に参加する活動
- (2) はたらく人が、自らの経験を活かして参加する活動
- (3) 地域のさまざまな団体が連携し、参加する活動

3 募集期間

2015年1月5日(月)～2015年1月15日(木)〈必着〉

4 助成対象期間

2015年6月1日～2016年5月31日の期間に行われる活動を助成対象とします。

5 助成対象団体

- (1) 1都7県(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川県、山梨)を主たる活動の場としているボランティアグループや市民団体(NPO法人等)
 ※上記エリア内で、広域的に活動を行っている団体も対象とします。
- (2) スタート助成は、概ね団体設立から5年未満(任意団体期間含む)であり、支出規模500万円未満(直近年度実績)の団体を主な対象と想定しています。
- (3) ステップアップ助成は、スタート助成で3年または2年にわたって助成を受けて活動を行った団体が対象です。

6 助成内容

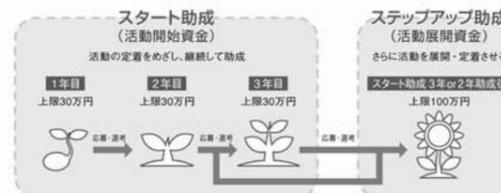
助成総額は概ね2,000万円です。
 このプログラムは、地域で新たに活動が開始され、その活動が定着することを願い、最長で4年の助成を受けられる仕組みです。

(1) スタート助成(活動開始資金)

- 1団体 上限30万円
- ・新たな活動を開始するための助成で、団体の活動実績を問いません。
 - ・活動の定着まで最長3年にわたって継続して助成を受けることができます。但し、年ごとに応募し、選考を受けていただきます。

(2) ステップアップ助成(活動展開資金)

- 1団体 上限100万円
- ・「スタート助成で3年または2年にわたって助成を受けて活動を行った団体」が、さらにその活動を展開・定着させていくための助成です。



7 対象費目

スタート助成では、活動に必要な直接経費の他、助成額の30%まではスタッフ等の人件費も含めることができます。(なお、ステップアップ助成では、人件費や事務局諸経費などについての上限は特に定めません。)

8 選考方法

選考は下記の選考基準に基づいて選考委員会にて行います。

- (1) 地域貢献性：住みよい地域を実現するもの
- (2) 独創性：新しい試みに挑戦するもの
- (3) 実現性：計画の意図や内容が実現できる可能性の高いもの
- (4) 参加性：2に記載の【重視する活動】を参照
- (5) 成長性：活動を通して人も組織も育つもの
- (6) 発展性：助成後も活動の発展があり、波及効果が予想されるもの

中央労働金庫(中央ろうきん)

労働金庫(ろうきん)は、労働組合や生活協同組合のはたらく仲間が、お互いを助け合うために資金を出し合ってきた協同組織の金融機関で、はたらく人たちの暮らしを支え、快適で過ごしやすい社会づくりをめざしています。中央ろうきんは全国に13ある労働金庫のうちの一つで、関東エリア1都7県を対象に事業をしています。

9 「募集要項・応募用紙」の入手方法

「募集要項・応募用紙」は以下のいずれかの方法により入手できます。

- ① Webサイト (<http://www.rokin-ikiiki.com/>) からダウンロード。
- ② 最寄の中央ろうきん窓口。
- ③ 2014年12月8日(月)に東京にて開催する「助成金セミナー」への参加。(詳細は上記①のWebサイト参照)

10 応募方法

応募書類(所定の書式による)のみ、折りたたまずに、郵便にてお送りください(持ち込み不可)。なお、選考過程で、必要に応じて聞き取り調査の実施や団体の定款・事業報告書などの提出をお願いすることがあります。

※お送りいただいた書類は返してできませんので、送付前に必ずコピーをとっておください。

11 選考結果

選考結果は、2015年4月末までに文書にて連絡いたします。なお、採否に関するお問合せには応じられません。

12 助成決定後について

- (1) 団体名、代表者名、所在都県名、活動名、活動概要、活動対象地域、助成金額を公表します。
- (2) 覚書を「中央ろうきん社会貢献基金」と締結し、それに基づいて活動していただきます。
- (3) 贈呈式(2015年5月開催予定)にご出席いただけます。
- (4) 中間報告書と完了報告書をご提出いただきます。
- (5) 中間報告会(2015年12月開催予定)にご出席いただきます。
- (6) 中央ろうきんの社会貢献活動に関する広報活動にご協力願います。

応募書類送付先・問い合わせ先

中央ろうきん社会貢献基金
 (中央労働金庫総合企画部内) 担当：高瀬・笹沼
 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5
 フリーダイヤル：0120-86-6956(平日9時～18時)
 URL：<http://chuo.rokin.com/>

本プログラムで取得する個人情報につきましては、助成金の選考に必要な範囲で利用し、当基金が責任をもって厳格に管理を行い、担当事務局(中央ろうきん社会貢献基金、中央労働金庫、市民社会創造ファンド)、および選考委員・予備審査担当者以外の第三者に提供することはありません。

特定非営利活動法人市民社会創造ファンド

日本の非営利セクターの発展を願い、NPOへの望ましい資金循環の実現を図るために日本NPOセンターの活動を継承して設立した組織です(2002年4月発足)。市民活動やNPOへの助成プログラム等の企画・運営などを行っています。
<http://www.civilfund.org>

